

学校教育目標		豊かな心と学ぶ意欲をもち たくましく生きる子どもを育成する		重点目標	学力の向上(根拠を基に自分の考えを言える子どもの育成) 生徒指導の機能を生かした学級経営 授業力の向上, 全職員での児童理解				
評価計画					自己評価		学校関係者評価	改善計画	
重点目標	目標達成のための方策(取組指標)	成果指標(目指す児童の姿)	評価		結果(成果と課題)	評価	コメント	次年度における改善策(案)	
重点目標に関する評価	学力の向上(根拠を基に自分の考えを言える子どもの育成:相手に伝わるように自分の思いや考えを発表できる子どもを育てる)授業力の向上, 全職員での児童理解(「めあて」と「まとめ」を大切に板書, 全職員で全校児童を温かく厳しく見届ける)はつきり	学力向上プランに則った授業の改善を行い, 学び方の定着を図る。	学習の中で自分の考えを書いたり, 発表したりできたと感じる児童	3	3	○ノート指導や書く時間の確保によって、少しずつ学年に応じた、自分の考えを書くことができるようになってきた。 ○他学年の教師による読み聞かせ(読書交流)や保護者の読み聞かせや目標を設定した読書の取組などにより読書量は増加した。 ●基礎タイムの定着、基礎基本の徹底が十分でなかった。学び方や学習規律の習得がまだ不十分である。 ○出前授業等などGTの活用により興味・関心を高める学習が展開でき、質の高い学習ができた。 ●習熟度別指導や個に応じたきめ細かな指導が十分ではなかった。	A	・保護者の読み聞かせは、学年の実態やテーマなどの情報を共有する機会を設けるとともに充実するのではないかと。 ・活字離れと言われていたが読書は、生涯教育につながるものなので是非、質、量ともに伸ばして欲しい。 ・GT招聘等による体験的な学習を行っていただいているのは、大変意義深い。キャリア教育推進の面からも進めて欲しい。	○学力テストの結果分析をさらに細かく各担任が分析し、対応策を考え、学級経営や授業に生かすようにする。 ○授業の中に「考えをつくる」「ふり返し」を位置づけ、交流するなどの言語活動の場を確保する。 ○読書の時間や図書室に行く時間を確保する。(帰りの会や隙間の時間の活用) ○基礎タイムの見直しを図る。(全校で取り組む内容、方法、評価など) ○学力向上委員会の推進や学年学級における学力向上プランの作成を行い、数値目標を設定し、達成する。 ○個に応じた指導の徹底を図り(指導方法工夫改善担当の活用)、出前授業等の主な単元計画の見直しを行う。
		基礎タイム・読書タイムの継続的取組を通して、基礎的基本的学力の向上を図る。	年間読書冊数が昨年より増えた児童数の増(100冊)1学期は40冊、2学期は70冊	4					
		到達度テストで前年度より向上している児童	3						
		指導体制の工夫による個の応じたきめ細かな指導の実施。(少人数やTTによる授業時数の増加や出前授業等でのGTの活用を図る。)	学習の仕方や学習習慣が身に付いた児童(観察・アンケートの実施)	3					
	生徒指導の機能を生かした学級経営(子どもの具体的なよさを認め、誉め、受容する)やさしく	自己存在感が高まるような積極的生徒指導の観点での学級づくり(一人一人の授業の足跡が見える教室環境の整備と活動の場の確保)	振り返りカードや生活アンケート、日記などによる楽しさや満足度の高い児童	3	3	○教室環境や学習のノートなど学習の足跡や認め励ますコメントなどを通じて児童の存在感や満足感を高める機会が増えた。 ○英語活動など学習において異学年と交流したり、掃除リーダー制を通したりして、積極的にコミュニケーション活動を楽しむ姿が増えてきた。 ●また、規範意識や自尊感情が低い傾向にある。	A	・生徒指導面では中学校が落ち着いた生活態度が見られるのは小学校の取組が大である。中1ギャップ解消に向けてさらに連携を深めたい。 ・家庭格差が二極化しつつあるので取組を小中、小小連携して進めて欲しい。	○掃除リーダー制の徹底と児童会による活動の推進をさらに行う。(異学年、自治的活動の推進) ○1週間の予定を教師、児童、保護者が共有することによって見通しのもてる行動がとれるようにする。 ○～名人や～博士など得意な面を認めたり、賞賛したりする機会や場を設定(明治検定、挨拶名人など)し、全員でほめる、認める場のよさを味わう機会や活動をつくる。(全校集会や行事など)
		外国語活動(英語活動)や仲良しタイム、縦割りでのふれあい活動などのコミュニケーションのよさを広げる、同学年や異学年との交流活動の実施。	学習や生活における交流の質(言動)の向上や問題行動の減少	3					
	健やかな体づくりたくましく	学級遊びの日の設定や月目標での呼びかけによる外遊びの奨励。	体力アップシートの全員目標達成	4	3	○全学年週に一回は、学級遊びを取り入れ、元気に外で遊ぶ姿が見られる。また、体力アップシートは、ほとんど達成できている。 ●担任の呼びかけなどにより、昨年と比べると「明治のノート」の提出率はよくなっている。学級差や家庭差が出てきているのでさらに検討を図る必要がある。習慣は、二極化してきている。	A	・家庭と学校の「架け橋」となっている「明治のノート」はより効果が上がるような方法で是非続けて欲しい。 ・PTAで推進するために各委員会で具体的協議の場を設けてはどうか。	○「あ・そ・べ」の奨励と定着、深化を図る。 ○指導マニュアルの作成(中学校区共有)を行い、着実に指導を行う。 ○「明治のノート」の改善(明治っ子の一週間(仮))と定着を図る。 ○生活習慣の定着については、PTAとの連携(各種委員会での取組の明確化と強化)を図り、啓発する。
		発達段階に応じた基本的生活習慣育成に関する指導の推進。	「明治のノート」の提出率の増加と「早寝・早起き・朝ごはん」の良い生活リズムの確立・向上	2					
	家庭、地域との連携と教職員の協働体制	月目標による重点化及び児童会・PTAでの取組などによる挨拶の運動の推進。	あいさつやよい言葉づかいができていますと答える児童(教師・保護者等の声の前年度より向上している)	3	3	○学級だよりによる呼びかけにより挨拶運動への保護者の参加が徐々に増えてきている。また、児童会との連携により意識化と意欲化が図られてきている。 ○学期ごとの授業公開や校務分掌の目標設定により指導力・参画意識が高まってきている。	A	・挨拶運動や「ありがとうの日」など、よく取り組んであると思う。 ・挨拶は人間関係づくりの基本であるので、習慣づけを地域・保護者連携して取り組みたい。	○地域・保護者の声を聞きながらさらに、活動の継続化を図る。連協、民生員会等とのネットワークを密にする。 ○外国語活動の発表に向けて指導力、参画意識の向上をさらに図る。(PDCAサイクルによる運営)
		一人一人の教師力・指導力の向上と学校運営への参画意識の向上(授業公開と校務分掌推進表の活用)	授業反省会の実施と学期ごとの教育活動の反省や自己評価表の評価の向上	3					

◇ 評価について 【自己評価】 4:目標達成(90%以上) 3:ほぼ達成(70%~90%) 2:もう少し(60%~70%) 1:できていない(60%未満)  
 【学校関係者評価】 A:自己評価は適切である B:自己評価はほぼ適切である C:自己評価はあまり適切でない D:自己評価は不適切である